

文化交渉学 専攻 _____ 領域（博士前期/修士・博士後期・前後期共通）

試験科目：第1外国語（中国語） / 専門科目（_____）

--

その時トイレにいた二人の紳士が彼を抱き起こそうとした。しかし、彼は全くどうにもならなかった。彼は階段の下の床に体を丸くして横になっていた。そこから落ちたのだった。二人は、彼を仰向けにした。床の汚物と泥で汚れていた。その上に彼は、顔を下向きにして横たわっていたのだ。彼の目は閉じていて、息が荒かった。血の細い流れが彼の口のすみから、滴っていた。

この二人の紳士とバーテンの一人は、階段の上まで彼を運んで、バーの床に再び横たえた。2分もすると、彼の周支配人がりに人の輪ができた。バーの支配人がみんなに、彼が誰で、誰と一緒にいたのかと尋ねた。誰も彼が誰だか知らなかった。しかし、バーテンのひとりが、ラム酒の小グラスを彼に出したといった。

「彼はひとりだったのか」と支配人が訊ねた。

「違います。二人の紳士が一緒でした。」

「それでその人たちはどこにいるのだ」誰かが「誰にもわからない」と言った。

「空気を入れてやれ。気絶しているぞ。」

見物人の輪が広がり、再び柔軟に閉じた。血の暗い塊がモザイク模様の床のその男の頭のそばにできていた。支配人は、その男の顔が灰色で蒼白なのに驚いて、警官を呼びにやらせた。

彼のカラーが緩められ、ネクタイがほどかれた。彼が一瞬目を開けて、ため息をつき、再び目を閉じた。彼を上階に運んだ紳士の一人が、手につぶれた帽子を持っていた。支配人が繰り返す、誰もこの傷ついた男が誰なのか、彼の友人たちはどこに行ったのか知らないか、と訊ねた。

(ジェームズ・ジョイス「恩寵」、『ダブリンの人々』所収)

文化交渉学専攻専攻 _____ 領域（博士前期/修士・博士後期・前後期共通）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（小論文）

問一 「空地」は大人数を収容するための空間であり、当初から「国体」を視覚化するための政治空間として設計されたわけではない。一方、「広場」はそもそも指導者と人民とが相対する政治空間を意図して作られた。

問二 バルトは、日本では内容のない容れ物だけが存在し得ると考えて、町に行く多くの日本人が持っている風呂敷包みに仮託して、日本の特質が「空虚な表徴」にあるとみなした。

問三 この文章においては、筆者は政治が空間と密接に関係することを述べ、最初から政治空間として意図されて設計された、中国の広場のような空間（筆者は物を収納することを最初から目的として作られたカバンにたとえる）と、ただ大人数を収容し得る場所として作られた、日本の宮城前広場や練兵場のような空間（筆者はバルトの表現を借りて風呂敷にたとえる）が明確に異なることを述べる。しかし、後者の日本の空間は、そこに天皇が登場したとたんに政治的な空間に変貌するとも説いており、日本的な空間は臣民が上級者へと奉仕し一体化することを具現化するものとして機能したとも説いている。

こうした筆者の考えを参照し、政治と空間との関係性について自己の意見を展開する。